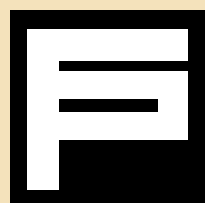
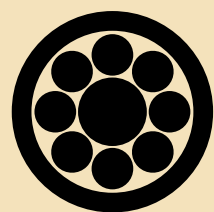


新庄城下 まちあるき絵図

新庄城下 まちあるき ガイドブック

Shinjo Castle Town Walking Guidebook



新庄城絵図

(尾形芦香描／市教育委員会所蔵)

新庄城は、寛永2年(1625)に新庄藩初代藩主・戸沢政盛が、従来日野氏が居館としていた新庄城を拡張整備した城である。政盛が整備した新庄城は、本丸中央に3層の天守閣、3隅に隅櫓、表御門、裏御門を備え、二の丸は役所や米倉、大手門、北御門を有し、三の丸には多数の侍屋敷を区画した堂々たる近世城郭であった。

新庄藩は最上郡一円と村山郡の一部、6万石(後に6万8200石)を領し、元和8年(1622)から明治初年まで11代250年にわたり、この城を拠点として藩政を展開した。

慶応4年(1868)7月、新庄城は庄内勢に攻められ、焼け落ちた。明治に入り新庄城は廃され、跡地は新庄学校、勸業試験場、招魂社、群会議事堂などの敷地として利用された。絵図は、尾形芦香(1858-1946)が自分の幼いころの記憶を古老の証言で確かめつつ描いたもので、幕末の新庄城の様子を今に伝えている。この絵図(複製)は、新庄城址(表御門石垣脇)に設置されている。

城下町新庄周遊促進プロジェクト(新庄市・新庄信用金庫)

新庄領内絵図屏風(部分) 新庄市教育委員会所蔵
本屏風は、新庄領内を克明に描いたもので、三隻一対の屏風で、市指定有形文化財に指定されている。作者や製作年代は明らかになっておらず、諸説あるが、享保年間(1716-1735)に新庄藩3代藩主戸沢正康(あるいは4代正勝か)が絵師に命じて描かせたものとされている。

受けつぐ想いが、未来をつくる。
新庄開府
400年
1625-2025



未来に引き継ぐ地域の宝



新庄城下の 主な歴史資源

Shinjo Heritage Road Map

1

新庄城址

【市指定史跡】

新庄城(沼田城・鵜沼城とも呼ばれた)は、新庄藩初代藩主政盛(まさもり)が、前代この地に居住した日野将監の居館を拡張整備して築いた城で、完成は寛永2年(1625)とされている。以後、江戸時代を通じて、戸沢氏歴代の居城とされた。



新庄城は、明治戊辰戦争の折、慶応4年(1868)7月14日、庄内勢に攻められ、城下の市中もろとも焼失した。現在は、最上(もがみ)公園として人々に親しまれている。

2

天満神社

【県指定有形文化財(建造物)】

天満神社(天満宮)は、新庄城址本丸跡の南西隅にあり、新庄藩主戸沢家の氏神として、旧領秋田県角館時代から崇拝されてきた神社である。常州松岡への転封時には同所に遷座、さらに、新庄への移封により現在地に遷座されたものである。



棟札には、初代藩主政盛が、新庄城築城の3年後の寛永5年(1628)に建立し、40年後の寛文8年(1668)年に2代藩主正誠(まさのぶ)によって再興されたと記されている。

3

新庄ふるさと歴史センター

約270年の歴史をもつ新庄まつりの優秀山車2台を展示するほか、新庄の歴史・民俗・観光・芸術文化を物語る史料や作品を多数展示している。



- ◆開館時間 午前9時から午後4時30分まで(入場は午後4時まで)
- ◆休館日 毎週火曜日・祝日の翌日(ただし祝日の翌日が休日、土日曜日の場合を除く)・年末年始(12/29~1/3)
- ◆観覧料 大人300円/高校生100円/小中学生50円/団体割引有り

4

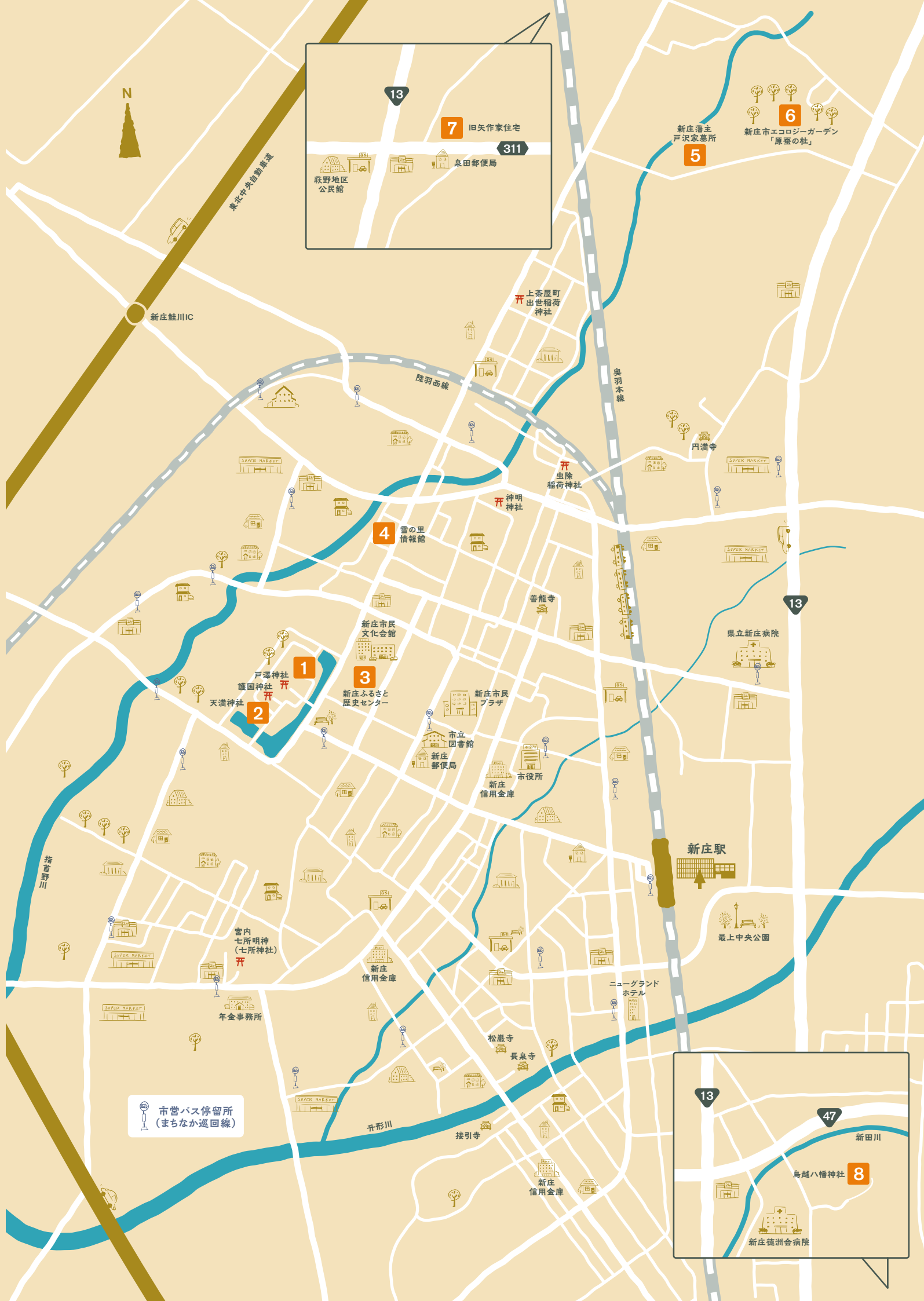
旧農林省積雪地方農村経済調査所庁舎

【国登録有形文化財(建造物)】

雪害救済運動によって、昭和8年(1933)に設置された旧農林省積雪地方農村経済調査所の建物の一部が、雪の里情報館の展示室として活用されている。



現存するのは、昭和12年(1937)年に建造された旧庁舎で、建築学者で民俗学研究者でもある今和次郎(1888~1973)が設計に関わったとされる。雪下ろしの必要がない急勾配の切り妻屋根と、光が入りやすい三角のドーム窓が特徴である。



5

新庄藩主戸沢家墓所

【国指定史跡】

新庄藩歴代藩主の墓所が、太田の瑞雲院境内(6棟)と、上西山の桂嶽寺境内(1棟)の2カ所にあり、ともに「御霊屋(おたまや)」と呼ばれている。



大きさと細部のデザインはそれぞれ異なるが、基本的には同一様式で、いずれも総檜の単層宝形造りで、美しい造りとなっている。

戸沢家墓所は、歴代藩主の御霊屋が、ほぼ創建当時のままに現存していること、また、1700年代初期から後期にわたる約100年間の廟建築の様式の変化を示す例として貴重であることから、昭和62年(1987)に史跡に指定された。

6

旧農林省蚕糸試験場新庄支場

【国登録有形文化財(建造物)】

昭和9年(1934)に農林省蚕業試験場福島支場新庄出張所として設立され、同12年(1937)に蚕糸試験場新庄支場と改称。何回かの名称変更を経て、平成12年(2000)3月に閉所された。その後、平成14年(2002)2月に市に譲渡され、「新庄市エコロジーガーデン」として活用されている。



切り妻屋根の玄関ポーチを備えた支場庁舎や蚕室4棟など10棟の建造物群が広大な敷地に現存している。

7

旧矢作家住宅

【国指定重要文化財(建造物)】

旧矢作家住宅は、主屋(母屋)から「まや(馬屋)」が突き出ており、最上地方の典型的な「まや中門(片中門)造り」の農家住宅で、縦屋平入の三七(梁間三間、桁行七間)造りである。中門造りは、基本的には多雪対策のための造りで、秋田、山形、新潟などの日本海沿いに多いといわれている。最上地方における江戸中期の農家住宅の構造が見られる貴重な建物として、昭和44年(1969)に重要文化財に指定された。



8

鳥越八幡神社

【国指定重要文化財(建造物)】

市の東南部に位置する鳥越地区にある八幡神社は、古くから鎮守の神として崇拝されてきた神社である。



現在の社殿(本殿)は、新庄藩初代藩主政盛の養子定盛が、江戸初期の寛永15年(1638)に造営したもので、この地方では最も古い建物とされている。

拝殿と幣殿(相の間)は、これより少し遅れて、元禄4年(1691)、2代藩主正誠の造営によるもので、拝殿の前面に向拝を有し背面に幣殿を設けて本殿と接続している。

江戸時代初期の建築技術を伝える貴重な建造物として、昭和61年(1986)に重要文化財に指定された。

新庄まつりの山車行事

【ユネスコ無形文化遺産】

【国重要無形民俗文化財】

毎年8月24日から26日の3日間開催される地域あげての大祭である。

江戸時代中期の宝暦6年(1756)、5代藩主正誼(まさのぶ)が、前年の凶作による飢饉で心身ともに疲弊した領民たちに活気と希望を持たせ、五穀豊穡を祈願するため、戸沢家の氏神である天満神社(天満宮)の「新祭」を領民あげて行ったのが起源とされている。



8月24・25・26日